

第109回 令和7年10月23日（木）

高校生という時代にやっておいてほしい大切なこと。

「先生」と呼ばれる職業はいくつかあります。政治家、お医者さん、それから教師。教師の中でも幼保から高校までは先生と呼ばれても、大学は先生だけではなく教授とか助教とか呼び方にバラエティーが生まれてきます。

政治家やお医者さんの先生と、教師の先生も微妙に違いがあります。教師の場合「私は〇〇です」と同じように「先生は〇〇です」という使い方をしますが、政治家やお医者さんは自分で「先生はね・・・」と言いませんよね。こちらの先生は周囲からのリスペクトや、悪い見方をすれば多少持ち上げている部分があるのかもしれない。

「私は」の表現で役割が使われるものは例えば家族です。「おじいちゃんはね」とか「お母さんはね」と使っても違和感がありません。また親しい間柄で自分の名前を言うこともあります。「みっちゃんはね」など、大人が使うと少々違和感があります。

ここから推察されることはそれだけ「先生」という存在が昔はかなり身近だったということではないでしょうか。以前に比べるとそのように表現する人は減ったように思います。また「校長はね」という言い方はしませんから、やはり先生方と校長や副校長は生徒との距離感が違うのだと思います。少し寂しい気がしますので、いずれまた生徒たちの身近で働きたいと思っています。

「教育」は「おしえ、はぐくむ」と書きます。「学習」は「まなび、ならう」と書きます。これは小学校や中学校の義務教育段階にあてはまる言葉のような気がします。大学はどちらかといえば「学問」。「まなびをとう」ということです。そしていまの高校はその橋渡しとして「探究」「さがしてきわめる」がもっとも適していると考えています。

高校卒業後の大学で何を学ぶのか、学部や学科を選択することが必要です。そのために高校時代に「さがす」ことが大切です。できるだけ多くのものに触れて、自分に合わないものを見つけることも大事です。時間は有限ですから迷っていたらすぐに3年間で過ぎていくと思います。

そこで参考にすることができるのが「先生」「さきにうまれた人」になります。基本的にあなたより年上の人はずべて「先生」です。直接聞いてもいいし、本ですでにこの世界にいない人の考えを知ることできます。

時間はあっという間に過ぎていきますから、臆することなく自分をさがし、きわめてください。そして大学という次のステージでさらなる学びを深めてほしいと思います。